

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成21年3月25日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長
松 本 紘

事業区分	平成20年度・大学全体計画事業助成		
事業名	京都大学・東京フォーラム		
成果の概要	別紙のとおり 「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()		
会 計 報 告	事業に要した経費総額		4,619,870円
	うち当財団からの助成額		4,000,000円
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	会議費	3,082,538	3,082,538
	印刷費	291,375	291,375
	通信運搬費	62,417	3,947
	旅費	1,093,120	531,720
	消耗品費	90,420	90,420
合 計	4,619,870	4,000,000	

京都大学・東京フォーラムについて（報告）

京都大学は、知の拠点として独創的な研究成果や次世代の産業の芽となる革新的な技術を、産業界・国・地域との密接な連携の中で創出・活用していく中心的な役割を担っている。また、教育面においては、社会のあらゆる分野で指導的役割を果たしうる人材を育成することを使命とし、「自由の学風」によって涵養された独創性、柔軟性は各界から高く評価を得ているところである。

今般、京都大学の教育研究活動や研究成果に関する情報を産業界や広く社会に向けて発信し、更なる連携を図るため、平成20年12月2日(火)に東京會館（東京都千代田区）において、「京都大学・東京フォーラム」を開催した。

本フォーラムは「魅力・実力・活力の京都大学を目指して」をメインテーマとし、関係省庁、学術関係団体、経済団体、民間企業の各方面から約120名の参加を得た。

松本京都大学総長の挨拶と基調講演で開幕し、次いで新役員7名(塩田浩平、江崎信芳、大西珠枝、大西有三、西村周三、藤井信孝、吉川潔各理事(副学長))が自己紹介と担当業務について講演した。

その後、西村周三理事(副学長)が「人材育成と世界経済」と題して、次に島田周平大学院アジア・アフリカ地域研究研究科長が「アフリカの今を京都で考える」と題して、それぞれ特別講演を行った。

今回の東京フォーラムは、各理事がそれぞれの担当業務を通じ、本学が現在取り組んでいる重点事業(教育・研究・学生支援・環境安全・男女共同参画・事務改革・国際交流・医療支援・社会連携・広報、情報発信・財務戦略・キャンパス整備)について説明するなど、京都大学での様々な取組みを紹介するとともに、最新の学術研究活動等の成果を紹介することにより、産業界や行政関係者に対して理解と協力を求め、本学の社会との連携活動の一層の推進を図るものであり、所期の目的を達成することができたと考えている。

引き続き、本学の教育研究面での様々な活動や学術研究成果を積極的に社会に向けて発信し、連携を推進するため、本フォーラムを継続して開催したいと考えている。